

御食国食文化創生と「豊かな海」再生事業

三重県志摩市（2018年度選定）

1.地域の特徴と課題及び目標	志摩市は、ほぼ全域が伊勢志摩国立公園の指定を受けており、古くから自然と共生してきた地域である。しかし、海水温の上昇や「磯焼け」と呼ばれる藻場の消失等の自然環境の変化、また、少子高齢化や後継者不足により、御食国の食材確保や伝統文化継承が懸念される。「自然と人が共生するまち」【環境】、「市民が誇りをもって暮らすまち」【社会】、「地域の良さを生かした産業が元気なまち」【経済】を目指すことによって、持続可能なまちづくりを実践していく。	2.関連するゴール	8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任 つかう責任 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさを守ろう 17 パートナリシップで目標を達成しよう
3.取組の概要 (三側面をつなぐ統合的取組概要を含む)	豊かな自然、地域の歴史・文化を守り伝えることや、御食国の食材を中心とする地域ブランディングの推進により、三側面での自立的好循環を生み出す。また、志摩市版SDGs官民連携プラットフォーム（シマシSDGsパートナーズ）制度により、地域課題の解決や持続可能なまちづくりを後押しする。		
4.自治体SDGs推進等に向けた取組		6.取組成果	
①「豊かな海」を守り、取り戻す取組 御食国「志摩」の食材・食文化を支える持続可能で豊かな海を再生・保全する。 ②御食国を支えるプライドの醸成と後継者不足問題 御食国としての歴史を踏まえ、伝統的な産業や文化及びプライドを継承する人材育成を進める。 ③御食国の食材を中心とする地域ブランディングの推進による観光地経営 御食国の食材を中心とする地域ブランディングの推進により三側面での自立的好循環を生み出す。 ④志摩市版SDGs官民連携プラットフォームの設立 官民連携プラットフォームを設立し、地域課題の解決、地域の活性化や持続可能なまちづくりを目指す。 御食国食文化創生と「豊かな海」の再生 環境 ①「豊かな海」を守り、取り戻す取組 経済 ③御食国の食材を中心とする地域ブランディングの推進による観光地経営 社会 ②御食国を支えるプライドの醸成と後継者不足問題 ④志摩市版SDGs官民連携プラットフォームの設立		①漁業生産に影響を及ぼす藻場の消失（磯焼け）への対策のひとつとして、各地域の漁業者と連携して、食害生物の駆除を実施した。また、市内の子どもたちに対し、環境保全の大切さや、課題に対する自らの行動を考えるきっかけを提供するような講座を実施した。 ②市の特産品など、地元食材を使用した学校給食を提供するとともに、市内全小学校で、生産者から地元食材の生産方法や特色などについて話を聞く交流会を実施した。地域の産業や食の魅力を子どもたちに伝え、地元への誇りや愛着を醸成した。 ③食を活用した持続可能な地域づくりや地域全体の活性化を目的に、全国に料理教室を展開する企業と連携協定を締結し、同企業からの人材派遣により、特産品を使用したメニュー開発に取り組むとともに、首都圏開催のイベントや全国から参加者が訪れる観光イベント、市公式YouTubeなどで地元食材のPRを行った。 ④シマシSDGsパートナーズをリニューアルし、地域内の官民連携プラットフォームとして、様々なステークホルダーとともに地域課題の解決に向けて考え、行動する「パートナーズ会合」を実施した。令和5年度は、具体的な課題として「海洋ごみ問題」を取り上げ、解決に向けたアクションにつなげた。	
5.取組推進の工夫		7.今後の展開策	
シマシSDGsパートナーズにおいては、SDGs達成に向けた取組の裾野を広げるという当初の目的が達成されつつあったことから、SDGs推進の次のステップとして、地域が抱える課題に対し、より具体的に解決をめざす官民連携プラットフォームとしての役割を強化した制度へとリニューアルを実施した。		今後も引き続き、パートナーズ制度を活用した地域課題の解決に取り組む。パートナーズ会合では、新たなテーマ（地域課題）を設定し、官民連携による地域課題解決の可能性を探りながら、具体的なアクションの実行をめざす。	
8.他地域への展開状況（普及効果）	市ホームページ等での情報発信に加え、他県からの視察や海外からの研修を受け入れたほか、SDGsの普及啓発を目的とした県外のイベントへ参加するなどし、市のSDGs推進に向けた取組を紹介した。		

御食国食文化創生と「豊かな海」の再生

